

隠さない企業風土づくり② 「安全と公正・誠実を誓う日」の制定

臨界事故の隠蔽により、地元および地域の関係者に多大なご心配、ご迷惑をお掛けするとともに、北陸電力に対する信頼が大きく失墜しました。これを受け、安全対策の総点検を実施するとともに、再発防止対策の策定にあたって組織や企業風土にも踏み込んだ根本原因分析を行い、2007年（平成19）4月に「隠さない企業風土づくり」と「安全文化の構築」を柱とした再発防止対策を構築し、現在も継続的に取り組んでいます。

2023年（令和5）には、この事実を今後も風化させることなく、未来永劫語り継いでいくため、毎年6月18日を「安全と公正・誠実を誓う日」と定め、志賀原子力発電所内に「失敗の教訓を語り継ぐ」アーカイブを設置しました。アーカイブには、「仰天不愧」（ぎょうてんふき）*1」と刻印した「鰐口（わにぐち）*2」を設置し「誓いの響き」を打つことで、臨界事故隠しを決して風化させないという決意を一人ひとりの心に刻み、臨界事故隠しの事実の浸透と再発防止の徹底を誓っています。

*1 「仰天不愧」（ぎょうてんふき）天を仰ぎて愧じず。自分の心や行動に少しもはじるところがない。公明正大で心にやましいところがない。

*2 「鰐口（わにぐち）」（別名：「金口」、「金鼓」）。仏堂の正面軒先又は神社の社殿に吊り下げられた銅鑼を2枚合わせたような円板状の青銅製の鼓。参拝者は、鼓面を打ち誓願成就を祈念する。邪気を祓い清める意がある。



「失敗の教訓を語り継ぐ」アーカイブエリア